

勢和小学校だより



明日も行きたくなる勢和小 ～楽しく笑って過ごせるように、やって、考え、工夫しよう～

発行日：令和7年6月10日

第11号

学校生活の課題は自分たちで解決しよう

～やって、考え、工夫して、明日も行きたくなる勢和小にしよう～

本校には児童会役員の役割を担う生活委員会があります。学校生活に関することを取り上げ、よりよい学校生活にするための目標や手立てを考え、取り組んでいます。

この生活委員会と各クラスの学級役員で構成する代表委員会を先日開催しました。各クラスから出された困りごとについて、意見交流し、話し合いを進めた結果、自分たちで解決できそうなことを取り上げ、全校体制で課題解消を進めていくこととなりました。以下に紹介します。

【自分たちで解決できそうな、困っていること】

- ・暴言、からかいをなくす
- ・みんなで集まる時は、静かにする（下校など）
- ・階段は1段ずつ
- ・トイレのスリッパをそろえる
- ・人の目を見て話を聞く
- ・歯磨きは流して（階段は危ない）

子どもたちが目の前の課題を素通りしてしまい、「自分には関係ない」と無関心では、課題は解消しません。自分にできることはないかと考え、声を上げ、仲間と行動することで、よりよい学校生活を築くことができます。

そして、その取組は持続可能であることが大切です。目標を掲げた限りは、今はどうなのか、自分はどう行動しているのか子どもたちが自分たちを客観視できるよう、振り返る時間を確保し、改善意識を継続させていきます。次回の代表委員会で困りごとが減っていることを期待しています。

「窓から離れて避難しよう ～けが人、通行不能な出入り口などを設定した避難訓練～

5月20日 地震を想定した避難訓練を行いました。

本校では職員の訓練も兼ねて実施するため、職員に対しても内容の一部を明らかにしていない訓練を行っています。具体的には、誰がケガをしているのか、けが人は何人かなどは管理職とけが人役をする児童しか事前には分かっていません。また今回は校舎が潰れたという想定から通過できる出入り口はどこなのかも事前に

は明らかにしていません。

3年前から実践を想定した訓練に変更したところ、子どもたちの行動にも変化があり、「ガラスが割れるから窓から離れて避難しよう。」と言葉をかけながら避難する姿が出ており、被災状況をイメージしながら避難していることがよく分かります。

従来の避難訓練では、教室からいかに早く運動場に避難できるかに重きを置き、管理職は運動場でストップウォッチを片手に「〇分以内に避難できた。」と評価していました。しかし震度6強の地震であれば、児童机はほとんどが転倒しているはずです。教室から廊下に出ることに時間もかかると予想されます。また負傷者も複数いることでしょう。短時間で避難できたから「よし」ではなく、イレギュラーな環境の中で自他の命を守りながら安全で最短に避難することに重きを置いた訓練にし、子どもたちおよび職員の安全意識を高めていきます。

今年度、本校に赴任したある職員は「緊張感がある訓練で、他の学校でもぜひやってほしい。」「避難中に2回目の揺れがあるなど、考えていなかったののでいい経験になった。」などと感想を話していました。

今回は4限目の途中で地震発生という想定だったため、授業者が子どもたちに指示を出し誘導しましたが、通学途中の場合には、通学団長をはじめ子どもたちが判断をして行動しなければなりません。子どもたちが自他の命を守って避難できるよう、安全教育の充実を図っていきます。

地震想定

震度6強。校舎の倒壊は免れたが、校舎全体が10cmほど潰れ、ドアや窓が開けられない。周囲には破損したガラスや散乱した物であふれ棚やロッカーが倒れている。

全校のみんなが仲良くなれるように全校遊びを企画 ～SEC人権委員会～

6月3日 校長室を訪れたSEC人権委員会の代表2人から、「全校遊びのため昼休みと掃除の時間を使わせて欲しい」とする要望を聞きました。

全校が仲良くなるために鬼ごっこを企画しているとのことでした。鬼役を誰にするのか、1回の時間は何分にするのかなど、委員会で話し合ってきたようで、タブレットで企画の説明を受けました。全校で鬼ごっこをしてもケガをする人が出ないようなルール・条件を考えて欲しいこと、鬼ごっこが苦手な人が楽しみだと思える工夫をしてほしいことを要望したところ、築山や溝など危険なところに行かないように線やパイロンで区切ったり、不安なことや嫌なことを解消できるように事前に思いを尋ね、ルールを工夫したりするなど、具体的な取組を聞くことができました。

今週末13日(金)に開催される全校遊びが大成功になることを期待しています。

なお、生活委員会も全校遊びを企画しているようで、様々な委員会が連携し「明日も行きたくなる勢和小」に向けて取組を進めています。